

熟議 in 茨城大学 実施概要

1. 全体概要

■日程 2012年2月24日(日) 10:30～17:00

10:30 開会式

主催者あいさつ

茨城大学学長	池田幸雄
文部科学省生涯学習政策局長	合田隆史
茨城県教育委員会教育長	小野寺俊

来賓紹介

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長	平林正吉
〃 生涯学習推進課長補佐	高井 絢
〃 生涯学習推進係長	船木茂人
〃 生涯学習推進係	内田奈那
茨城県教育庁参事兼生涯学習課帳	高橋鉄夫
茨城県水戸生涯学習センター次長	益子幸司
茨城大学生涯学習教育研究センター長	宮下 芳

10:45 基調講演

「地域社会と新しい「つながり」」

茨城大学地域総合研究所所長 井上拓也

11:50 熟議説明

文部科学省生涯学習政策局

生涯学習推進課生涯学習推進係長 船木茂人

12:00 インフォメーション・昼食

13:30 熟議開始(2グループ)

* 熟議の詳細は後述

16:20 熟議終了

16:30 全体会

司会 茨城大学生涯学習教育研究センター准教授

長谷川幸介

16:50 総評

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長 平林正吉

16:58 閉会

茨城大学生涯学習教育研究センター長 宮下 芳

17:30 情報交換会

会場：みまつホテル

■会場 茨城県水戸市三の丸公民館

■主催 茨城大学 文部科学省 茨城県教育委員会

■参加者数 90 名

■テーマ 市民協働と地域づくり・人づくり

● グループテーマ（サブ）

第1グループ 新しい公共が中心となる地域づくり

第2グループ 市民協働を担う人づくり

■基調講演 地域社会と“新しいつながり”

茨城大学地域総合研究所所長 井上拓也

2 基調講演

新しい公共が中心となる地域づくり 市民協働を担う人づくり

地域社会と新しい“つながり”

茨城大学地域総合研究所所長 井上拓也

3. 熟議報告

■第1グループ報告

テーマ「新しい公共が中心となるような持続可能な地域づくり」
～子どもを支えたい大人が想いを共有し、こどものたまり場について考える～

助言者：長谷川 幸介

ファシリテーター：伊藤 史紀

[めざす成果]

- ① 子ども達を取り巻く現状の課題、その課題解決のために一人ひとりが出来ること、協力が必要なことを明らかにし、そのアクションプランを立てる。
- ② さまざまな視点や方法から子ども達を支援する、あるいは支援したいと考える人々が集い、想いを共有しながら相互支援出来るようなつながりを築く。

日 程

13:30	オープニング
13:45	レクチャー 「子どものたまり場の重要性」
14:05	グループワーク 1
14:50	休憩（サイコロ出た目だけ休憩する）
15:05	グループワーク 2
16:00	総評（第1部）
16:10	フィナーレ
16:30	全体会（発表と講評）

■第2グループ報告

テーマ 市民協働と人づくり

サブテーマ コミュニティの再生への取り組みを検証しながら、
主体的に協働プロセスを担い続ける市民形成の可能性を探る

助言者 井上拓也

ファシリテーター 三浦 東

[めざす成果]

まちづくりや生涯学習関係者、学生を中心に、主体的市民の形成プロセスを話し合い、多様なセクターが連携・協働することによって生じる人材形成の可能性を探るものである。なお、分科会終了後には持続的形成を可能とする組織の立ち上げを検討したい。

- (1) 参加者相互の情報交換と課題の確認
- (2) 市民協働の実態とそのプロセスの可能性と問題点を検討
- (3) 「市民協働の担い手の持続可能な形成」というミッションの共有
- (4) 持続可能な組織連携のあり方を提示

日 程

13:30	発題	井上拓也（茨城大学）
13:50	グループ熟議①	「地域社会のつながりと現状：課題整理」
14:50	途中休憩	

15:00 グループ熟議② 「地域社会の新しい“つながり”：解決策」
16:30 全体会 （発表と講評）

4. 全体会

司会 長谷川幸介（茨城大学）

第1グループ「新しい公共が中心となるような持続可能な地域づくり」と第2グループ「市民協働と人づくり」の2つのグループ参加者が一堂に集まり、全体会を実施した。

各グループそれぞれから、6ケースごとの発表が行われ、熟議での検討内容の共有化を行った。

その後、文科省生涯学習政策局生涯学習推進課長 平林正吉氏より全体講評が行われた。

最後に、茨城大学生涯学習教育研究センター長 宮下芳から閉会のあいさつがあり、6時間半に及ぶ「熟議イン茨城大学」を閉会した。

5. 情報交換会

17時30分から会場を変えて実施された「情報交換会」は、熟議の余韻冷めやらぬ、参加者であふれかえる盛況であった。当初の予定を大きく上回る参加者であり、熟議が熟し切れなかったことを示していたかもしれない。

平成24年度 生涯学習調査研究事業

『「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくり』についての調査研究報告書

1 事業概要

急激な社会の変化により、地域社会の構造が崩れ「無縁社会」と呼ばれる現象が発生している。社会教育の側面から、この「無縁社会に立ち向かう」ための新しい仕組みづくりを進める必要性を感じた。この課題の解決には、人づくりが必要不可欠であると考え、人材の発掘と育成をキーワードに本事業を進めている。本事業は茨城大学生涯学習教育研究センターとの連携・協力を図りながら進めてきており、今年度は3年計画の2年目である。

1年目は、茨城県水戸生涯学習センターが、人間関係が希薄になった地域コミュニティの補強と再生(人材の発掘と育成)に取り組むためのモデルプログラムを開発し、県内の4生涯学習センターにそのプログラムを展開した。

2年目である今年度は、県内の4生涯学習センターが中間支援組織となり、地域の特色にあったプログラムを推進する。また、発掘・育成した人材(団体)を支援していくとともに、実践したプログラムを他の地域に広め、人材の発掘と育成のスキルが広範囲に広がり、相互に連携し合いながらプログラムがより高次なものになるように働きかけていく。さらに、地域コミュニティの補強と再生(人材の発掘と育成)と、プログラムの進捗との相関を計るために、「活動人口」を算出し調査研究する。

(1) 研究の経過

ア 水戸生涯学習センターの実践

(ア) H23年度

各センターを対象に、新たな社会貢献の仕組みづくりのためのモデルプログラムを実践する。(モデルプログラム(県域版)の実践)

(イ) H24年度

各センター区の地域の特色にあったモデルプログラムのスムーズな推進のために、実行委員等のメンバーとなり、共に実践しながら各種課題に対応していく。(モデルプログラム(各センター版)への支援)

(ウ) H25年度

各センター区でまちづくりを推進している人材(第3次団体)を支援をしている各センターを、アドバイザーとして支援する。(モデルプログラム(コミュニティ版)への支援)

イ 県内4生涯学習センターの実践

(ア) H23年度

水戸生涯学習センターで、人づくりやまちづくりのためのプログラムを学び、モデルプログラム(各センター版)を開発する。(モデルプログラム(県域版)の実践と(各センター版)の開発)

(イ) H24年度

各センター区で、地域の特色にあったプログラムを推進し人材の発掘と育成を実践する。さらに、モデルプログラム(コミュニティ版)を開発する。(モデルプログラム(各センター版)の実践と(コミュニティ版)の開発)

(ウ) H25年度

モデルプログラム（各センター版）の実践の成果（人材の育成）を生かして、モデルプログラム（コミュニティ版）を実践するとともに、他地域への事業の拡大を図る。

a モデルプログラム（コミュニティ版）

(a) 鹿行生涯学習センター

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」
～人・地域が輝く！！学校支援ボランティア～

(b) 県南生涯学習センター

土浦力をダス！～人がつながるまちづくり講座～

(c) 県西生涯学習センター

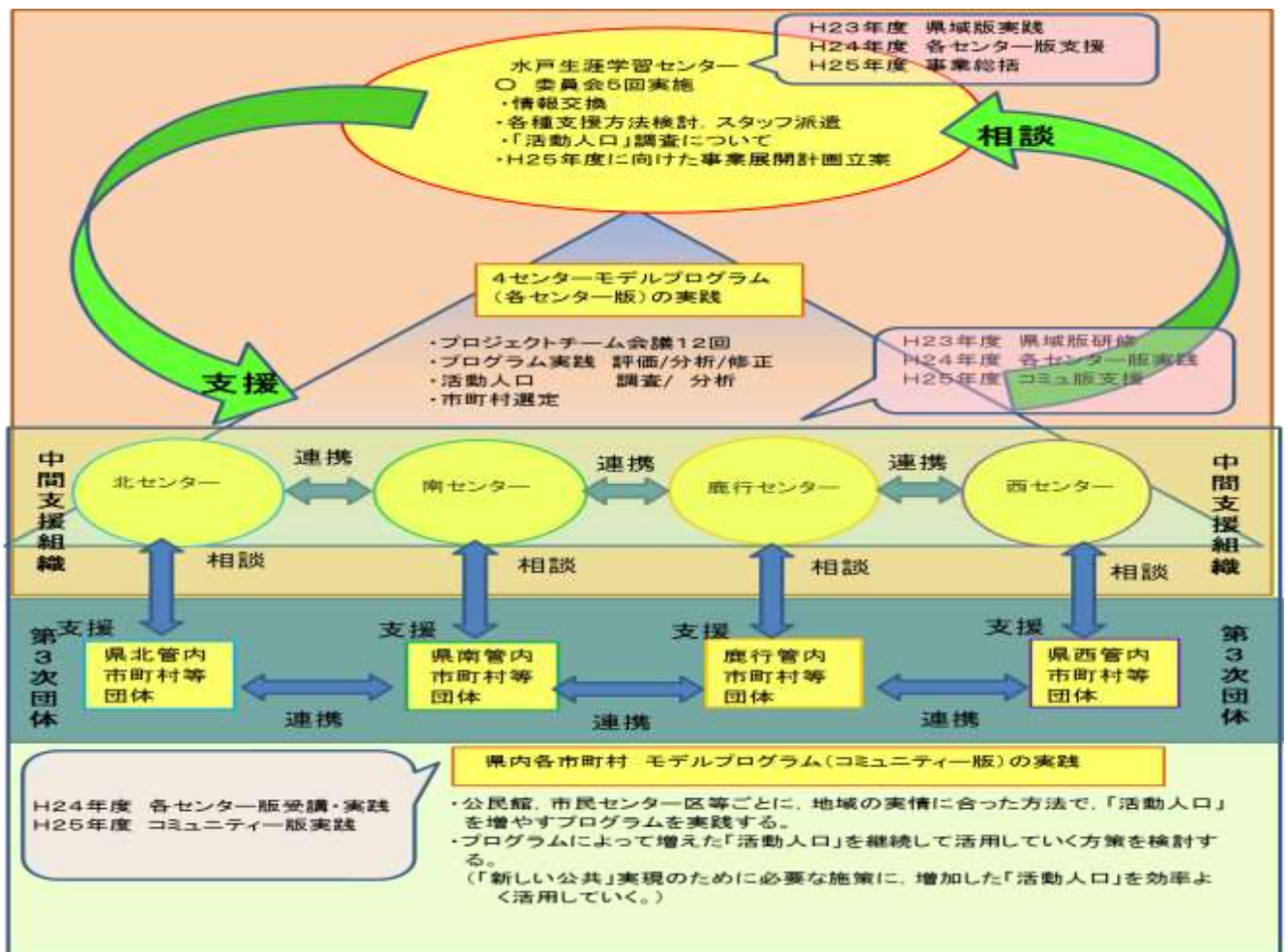
ふる里まちづくり塾

(d) 県北生涯学習センター

「コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう」

(2) 「活動人口」調査

ひとづくりやまちづくりを効果的に実践するために「活動人口」について調査・研究を実践した。



2 モデルプログラム（各センター版）の実践

（１） 鹿行生涯学習センター

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」

ア 目的

豊かな子育てコミュニティをめざし、地域の世代間交流や協働の心を深めることで、時代に合った深い絆の形成を図る。

イ 内容

学校の統廃合が計画されている地域で、子育て世代を対象に、新しい校区のネットワークづくりや家庭教育に関する支援について考える講座。

（ア） 講座・・・１０回

（イ） 対象・・・旧麻生第一中学校区の保護者・地域の女性会等

（２） 県南生涯学習センターのモデルプログラム（各センター版）

土浦力をダス！～人がつながるまちづくり講座～

ア 目的

地域で生活する全ての人に居場所があり、人の役に立つ喜びが味わえる社会の構築をめざし、無縁社会に立ち向かうための地域力を育成する。

イ 内容

土浦に住んでいるが、土浦のことをよく知らない。土浦を元気にしたいけれど方法が分からない。仲間をつくりたいけれどきっかけがない。という方を対象に土浦のことを考える講座。

（ア） 講座・・・６回

（イ） 対象・・・土浦市周辺居住者

（３） 県西生涯学習センターのモデルプログラム（各センター版）

ふる里まちづくり塾

ア 目的

地域に新たな人と人とのつながりを実現するために、自分たちの居住する地域の歴史、自然、風土を学び、地域に貢献した先人の足跡をたどることによって、地域（郷土）に対する愛情と誇りを持つと同時に、事業をとおして人的つながりを深め、人材育成を図る。

イ 内容

三世代が共に活動することをキーワードに、地域を知り、地域の人と人とがつながり、コミュニティをリードする人材の育成を考える講座。

（ア） 講座・・・１１回

（イ） 対象・・・筑西市太田地区居住者

（４） 県北生涯学習センターのモデルプログラム（各センター版）

コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう

ア 目的

大規模住宅団地である「城の丘団地」で、住民自らが地域に眠っている人材や資源を発掘し、地域の課題を解決する能力を高めるためのプログラム。

イ 内容

「城の丘団地」は、居住歴の浅い住民が多いため、住民同士の関係が希薄である。将来の高齢化対策や子育てに関する情報交換等、交流と助け合いのニーズは高い。そこで住民自治を強化するために、地域住民の意識の向上を図る講座。

(ア) ワークショップ・・・8回

(イ) 対象・・・城の丘団地住民

(5) 「活動人口」調査について

コミュニティでの活動状況を調査し、人と人とのつながりの状態を数値化することを試みた。

ア 「活動人口」の定義

「活動人口」を「みんなが元気になれるつながり力」と定義し、強さ弱さを表す。人々が日々の生活において、家族や地域、職場等において活動した回数を数値化して、固定化した定住人口と比較することにより、定住人口の多少に関係なく、「その地域の人々がどの程度元気に活動（生活）しているか」や「その地域の人々のつながり力の程度」を明らかにする。

イ 「活動人口」の積算の仕方

$$\text{「活動人口」} = \frac{\text{全回答者の活動頻度素数の合計}}{\text{回答者数}} \times \text{定住人口}$$

※「定住人口」は、調査する地域の20歳以上の人口とする

(平成22年度国税調査による)。

※「活動頻度素数」は、「よく活動した」を2点、「活動した」を1点、「活動しなかった」を0点として、定住人口「1人」あたりの各活動項目（家庭や地域等での支えあい活動等）ごとの点数を合計したもの。定住人口「1人」に対し、「どの程度の頻度で活動しているか」を素点として表す。

ウ 「活動人口」調査を終えて

活動人口は「家族や親戚に関わることを中心に展開している傾向がある。これは血縁をベースにしたつながりを基本に生活をしている人の割合が多いということを表していると言える。また、「地域・まちづくり活動」については、職場の仲間や地域の方々と取り組んでいる様子もうかがえる。「非常災害時の協力や支援」や「高齢者や障がい者支援」に関わる事に関しては、家族や親戚の枠内に留まり、地域が主体となって活動するには至っていないと思われる。これらの傾向を把握し、モデルプログラムの展開に生かしていきたい。

3 今後の事業展開

- (1) モデルプログラム（コミュニティ版）の推進
- (2) センター間での情報の共有化を推進
- (3) 第3次団体への支援
- (4) 「活動人口」調査研究の継続展開
- (5) 新たな社会貢献の仕組みづくりの展開

ひたちなか海浜鉄道新駅設置についての考察（概要）

協力：茨城大学生涯学習教育研究センター

1 新駅の需要について

新駅を設置することについて、地域住民の方はどのように考えているか考察する。

1) アンケート調査から

平成24年10月5日～17日にかけて実施した、ひたちなか海浜鉄道湊線沿線調査アンケート調査においては、以下のような結果が出ている。

新駅が近くにできたら利用しますかとの問いに、70%の方が「新駅ができたら利用する」と回答している。

また、海浜鉄道が行うべきサービスについても、1番はじめに取り組んだほうが良いものとして、「自宅・勤務先・学校等の近くに新駅を設置する」が一番多く選択されている。

これらのことから、地域社会が「新駅」に対し、期待感を持っていることが裏付けられる。

また、地域からの要望も出ており、柳が丘自治会がハートケアセンターと連名で設置の要望書を海浜鉄道に対して提出しているほか、新堀団地の住民の方々が、直接企画調整課に要望に来るなど、新駅について関心があることがわかる。

また、これらの団地は比較的建設されてからの年数がたっており、高齢化が進む団地の日常の移動手段の確保の必要性があるものと想定できる。

2 候補地

それらの地域からの要望や地域の状況などから考え、候補地を選定した。

	区間	位置
候補地1	中根駅～金上駅間	新堀団地下
候補地2	中根駅～那珂湊駅間	ハートケアセンター付近
候補地3	中根駅～那珂湊駅間	245号線陸橋下
候補地4	平磯駅～磯崎駅間	平磯地区

○選定理由

候補地1：昔から要望があった。新堀団地の方々が、震災後企画調整課に直接要望に来た。

候補地2：昔から要望があった。柳が丘自治会とハートケアセンターの連名による要望書が提出されている。

候補地3：田中後地区や相金地区など将来的な利用が見込まれる上、柳が丘団地からの利用も可能である。

候補地4：平磯、磯崎間の長距離の間に駅が無いことと、海浜鉄道に地域から要望があった。

■候補地についての検証

①現地の検証

候補地1 新堀団地下



○メリット

新堀団地からのアクセスが容易。
利用者増加が多く見込める。（アンケート結果から）

○問題点

- ・地盤が軟弱である。（元溜池であり、被災した土地である。）
- ・この地点に駅ができると、旧型車両が金上の駅を上りきれない。
- ・一番スピードを要する場所であるため、この時点で止めるとダイヤに悪影響を与える。
- ・この場所への道が狭く、車でのアクセスが不便。（雨の日などは渋滞が予想される。）

- ・環境整備に係る費用が莫大になる可能性がある。

以上の点から考えると利用が増える可能性は高いものの、現在の海浜鉄道のインフラによる運行には厳しいものがある。また、ダイヤに悪影響を与える可能性があることから、サービスの低下が懸念される。

候補地2 ハートケアセンター付近（柳が丘団地下）



○メリット

- ・ハートケアセンター利用者の利用が見込める。
- ・ハートケアセンターと協力体制が取れるため、話題性がある。

○問題点

- ・軟弱地盤であるため、駅の設置の際に基礎作りに費用が掛かる。
- ・柳が丘団地から直線距離では近いが、アクセスするには遠回りする必要がある。
- ・アクセスできる道路が細く、整備が必要。
- ・駐車場の場所が取れない。

・車両のスピードが一番早くなる場所であるため、ダイヤに影響が出る可能性がある。話題性や利用意向から考えると、有力候補の一つである。しかし現実に駅を建設するとなると、軟弱地盤のため難工事になる可能性がある。アクセスする道が細く整備が必要。

候補地3 245号線下



○メリット

- ・整地されていて、工事が容易。
- ・アクセス道路が整備されており、環境整備が比較的容易。
- ・駐車場を確保できる。
- ・柳が丘団地からの距離がハートケアセンターとほぼ同じである。
- ・相金町団地の古い団地の方々の利用が見込める。
 - ・田中後の新興団地があるため、将来的な需要が見込める。
 - ・現行の運行ダイヤにあまり影響を与えない。

○問題点

- ・柳が丘団地からのアクセス道路を整備する必要がある。

工事の容易さ、将来的利用の見込みがあり、現在の湊線の運行にあまり影響を与えない点から考えても、有力候補である。但し、要望書が提出されている柳が丘団地までのアクセス道路が整備されておらず、環境整備が必要となり経費に係る。

候補地4 平磯駅 - 磯崎駅間



○メリット

- ・平磯駅－磯崎駅間の長い距離の間に駅が追加できる。
- ・ダイヤにはそれほど影響はない。
- ・平地であるため、工事が容易。
- ・地盤はしっかりしている。（あくまで周辺状況からの推測）

○問題点

- ・利用者はすでに平磯駅を利用しており、あまり不便が無いため、新規利用が見込めない。
- ・調整区域であることから、この地域の人口増加は見込めない。

新駅建設のメリットは薄いと思われる。今後、地域の状況が変わり、住宅地の増加などが見込まれる場合改めて検討することにする。

■新駅設置の効果の検証

新駅設置した場合の候補地ごとの効果をアンケートの結果を基に、以下の条件で収入の見込みを予測した。

条件 1：アンケートの利用頻度を毎日を $7/7=1$ とし、年1回を $1/365$ として換算する。

条件 2：対象区域全戸配布であるため、回答用紙の変更がなかったもの及び無回答のものは、現在利用していない、今後利用する意向が無いものとみなす。

条件 3：現在の想定利用者数とアンケートの利用意向の数の差を増加人数とみなす。

条件 4：1人1日1往復利用するものとみなす。(1日2回利用)

①候補地 1 新堀団地下

1日当たりの現在の想定利用者数 6.08人

新駅設置後の1日当たりの現在の想定利用者数 32.87人

1日当たりの現在の想定利用回数 53.59回

1日当たりの収入見込み $150円 \times 53.59回 = 8,038.5円$

1年当たりの増収見込み $8,038.5円 \times 365日 = 2,934,052.5円$

②候補地 2 ハートケアセンター付近（柳が丘団地下）

1日当たりの現在の想定利用者数 9.24人

新駅設置後の1日当たりの現在の想定利用者数 25.66人

1日当たりの現在の想定利用回数 32.85回

1日当たりの収入見込み $260円 \times 32.85回 = 8,541円$

1年当たりの増収見込み $8,541円 \times 365日 = 3,117,465円$

③候補地 3 245号線下

1日当たりの現在の想定利用者数 11.76人

新駅設置後の1日当たりの現在の想定利用者数 9.53人

1日当たりの現在の想定利用回数 4.46回

実際の利用者は、元の駅を使うことから利用者減はないものとし、**増収はないもの**と仮定する。

※但し、現地調査から柳が丘団地からの候補地3までの距離がハートケアセンターと同距離であることから、**アクセス道路を整備することで柳が丘団地の方も利用すると仮定できる。**

その場合以下の収入が見込まれる。

1日当たりの現在の想定利用者数 9.24人

新駅設置後の1日当たりの現在の想定利用者数 25.66人

1日当たりの現在の想定利用回数 32.85回

1日当たりの収入見込み $310円 \times 32.85回 = 10,183.5円$

1年当たりの増収見込み $10,183.5円 \times 365日 = 3,716,977.5円$

④候補地 4 平磯駅 - 磯崎駅間

1日当たりの現在の想定利用者数 9.11人

新駅設置後の1日当たりの現在の想定利用者数 8.56人

1日当たりの現在の想定利用回数 1.10回

実際の利用者は、元の駅を使うことから利用者減はないものとし、**増収はないもの**と仮定する。

○結論

新駅の候補地を決定するためには、地域の利用意向と建設に係る費用及び将来の増収見込みなどを総合的に判断する必要がある。

アンケート調査においては、新堀団地下及びハートケアセンター付近が有力である。また、現地調査では、工事の容易さ、地盤の状況、経費の節約などを考えた場合、245号線下が特に有力であると考えられる。

将来的、直近の利用の見込み、経費の節減など総合的に考えた場合、ハートケアセンター付近及び245号線下が有力候補となると考えられる。

今後は、この2つの候補地について重点的に調査するため、地域へのヒアリング、候補地の具体的な調査を実施し、最終案を決定する必要がある。

別紙

新駅を利用するか

	はい	いいえ
溜池地区(青)	161	47
ハートケア(黄)	179	44
245高架下(桃)	80	65
平磯・磯崎(橙)	61	52

※対象区域全戸配布であるため、解凍の無かったものは、利用していない、利用する意向が無いものとみなす。

地区	No.	利用頻度	現在	新駅設置後	利用頻度(d) 一日当たり利 用者数	利用頻度(設 置後)(e) 一日当たり利 用者数	1日当たりの増 加人数(f)	1日平均増加 利用回数 (f)*2
溜池地区(青)	1	ほぼ毎日	1	7	1.00	7.00		
	2	週に5日	2	12	1.43	8.57		
	3	週に4日	1	6	0.57	3.43		
	4	週に3日	0	9	0.00	3.86		
	5	週に2日	3	16	0.86	4.57		
	6	週に1日	3	18	0.43	2.57		
	7	月に2～3日	13	18	1.30	1.80		
	8	月に1日	3	16	0.10	0.53		
	9	年に5～6日	9	24	0.15	0.39		
	10	年に2～3日	26	17	0.21	0.14		
	11	年に1日	11	2	0.03	0.01		
	12	ほとんど利用しない						
	13	利用したことが無い						
合計(青)			72	145	6.08	32.87	26.80	53.59
ハートケア(黄)	1	ほぼ毎日	5	8	5.00	8.00		
	2	週に5日	0	6	0.00	4.29		
	3	週に4日	0	3	0.00	1.71		
	4	週に3日	0	3	0.00	1.29		
	5	週に2日	5	16	1.43	4.57		
	6	週に1日	5	16	0.71	2.29		
	7	月に2～3日	15	28	1.00	1.87		
	8	月に1日	12	32	0.40	1.07		
	9	年に5～6日	15	20	0.25	0.33		
	10	年に2～3日	47	29	0.39	0.24		
	11	年に1日	22	7	0.06	0.02		
	12	ほとんど利用しない						
	13	利用したことが無い						
合計(黄)			126	168	9.24	25.66	16.43	32.85
245高架下(桃)	1	ほぼ毎日	4	0	4.00	0.00		
	2	週に5日	5	5	3.57	3.57		
	3	週に4日	2	3	1.14	1.71		
	4	週に3日	2	2	0.86	0.86		
	5	週に2日	1	2	0.29	0.57		
	6	週に1日	1	7	0.14	1.00		
	7	月に2～3日	11	15	0.73	1.00		
	8	月に1日	9	12	0.30	0.40		
	9	年に5～6日	24	19	0.39	0.31		
	10	年に2～3日	38	12	0.31	0.10		
	11	年に1日	8	2	0.02	0.01		
	12	ほとんど利用しない						
	13	利用したことが無い						
合計(桃)			105	79	11.76	9.53	-2.23	-4.46
平磯・磯崎(橙)	1	ほぼ毎日	4	1	4.00	1.00		
	2	週に5日	4	4	2.86	2.86		
	3	週に4日	0	0	0.00	0.00		
	4	週に3日	0	2	0.00	0.86		
	5	週に2日	3	4	0.86	1.14		
	6	週に1日	2	10	0.29	1.43		
	7	月に2～3日	7	8	0.47	0.53		
	8	月に1日	6	17	0.20	0.57		
	9	年に5～6日	6	8	0.10	0.13		
	10	年に2～3日	40	4	0.33	0.03		
	11	年に1日	6	4	0.02	0.01		
	12	ほとんど利用しない						
	13	利用したことが無い						
合計(橙)			78	62	9.11	8.56	-0.55	-1.10

いま・ここ・しぜん・ひと。それは、時を超える旅。

茨城県北ジオパークへの パスポート

いま、五億年前へ、旅立とう。ここ、茨城県北の大地から。

発見するのは、あらゆる文化の土台にあるしぜんと、そこで生きるひとびとの物語。



茨城県北ジオパークは2011年に
日本ジオパークに認定されました



■ ジオパークって？

地球を守り、学び、楽しむ場所。

何億年にもおよぶ壮大な地球の歴史が刻まれた場所、ジオパーク。

それはいわば、かけがえのない大地の遺産。

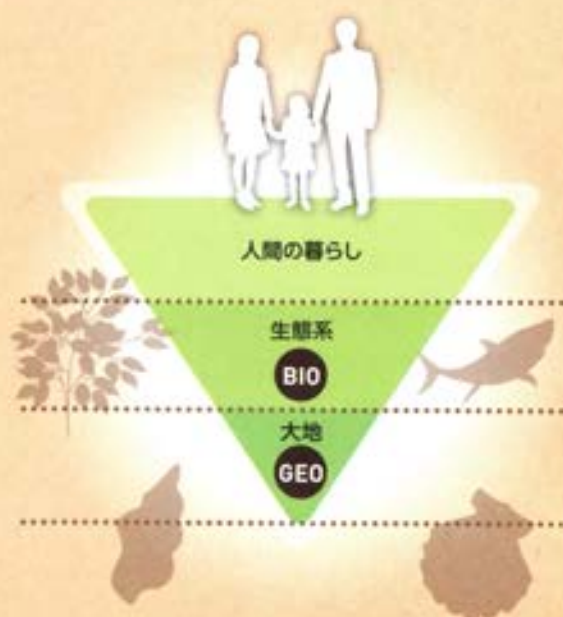
同時に、自然災害をも引き起こす大きな力の証でもあります。

ここには、そんな自然とともに生きてきた人々の暮らしや文化と、

誰もが大地の魅力に触れて学び、楽しむことのできる仕組みがあります。

■ エコツーリズムやグリーンツーリズムとの違いって？

大地の性質を含め、人間の暮らしや生態系などをグローバルな視点で、過去・現在・未来をつなぐ窓としてトータルに紹介していくのが「ジオパーク」です。ジオパークでは、美しい自然環境や文化歴史に親しみながら、科学的な現象に対して知識や理解を深めていく観光が楽しめます。



■ 15もあるジオサイト！

茨城県北ジオパークは、茨城県北部の地域を対象としたジオパークで、日本最古5億年前から現在までの大地の歴史が残されています。15のエリア(ジオサイト)の中から、おすすめの6つをご紹介します。

- ① 陸から海へ、海から陸へ。
瀑布となった巨大な海底火山。
袋田の滝ジオサイト
- ② 深い海の底から現れた陸は、
荒波に砕かれ、いくつもの美しい入江に。
五浦海岸ジオサイト
- ③ 恐竜たちが生きた時代、
アンモナイトが暮らす海の底。
平磯海岸ジオサイト
- ④ 工業都市日立。鉱山近くで、
日本最古、カンブリア紀の地層を観察。
日立ジオサイト
- ⑤ 大地をつくる強い岩、V字谷、花貫ダム。
四季折々の自然を楽しみながら。
花貫溪谷ジオサイト
- ⑥ 水の都、水戸に生まれた大きな湖。
変化は人々の暮らしとともに。
水戸・千波湖ジオサイト



① 袋田の滝ジオサイト

陸から海へ、海から陸へ。
太古の巨大な海底火山は、
日本三大名瀑のひとつに。



いまからおよそ1500万年前、袋田周辺は海の底に沈んでいました。そこにあったのは、なんと巨大な海底火山。袋田の滝は、その火山から噴き出したマグマが海水に冷やされてできたもの。そう聞くと急に滝がこれまでとは違って見えます。黒いごつごつとした岩肌を持つ袋田の滝。その力強さの秘密は、はるか昔の海底のマグマに隠されていました。

◀袋田の滝：哺乳類の時代(6550万年前～259万年前)

② 五浦海岸ジオサイト

海の底から現れた陸地は、
荒波に砕かれ、美しく、
個性的な五つの入江となった。

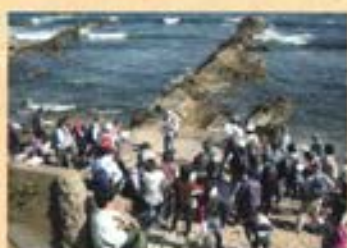


人類誕生以前、五浦周辺は深い海の底でしたが、やがて台地が変動し、陸地となりました。断崖絶壁のつづく個性的な景観の秘密は、太平洋の荒波だけでなく、海岸を形成する特徴的な岩石にあります。五浦海岸の岩石には硬いものと削られやすいものがあるため、崖や岩壁に削られる部分と残る部分ができるのです。美術家、岡倉天心が愛した風景はこうして誕生しました。

◀六本堂と奇石群：哺乳類の時代(6550万年前～259万年前)

③ 平磯海岸ジオサイト

8000万年前の白亜紀に、
翼竜が空を舞い、
アンモナイトが遊んだ海。



恐竜の存在は当然知っていても、身近に証拠を見ると不思議な感じがしてくるもの。平磯海岸周辺は関東では珍しく、白亜紀の地層を見ることが出来ます。当時ここは海の底。空には翼竜が、そして海底にはたくさんのアンモナイトが住んでいました。地層のおもしろさはもちろん、発掘された珍しい化石も魅力です。

◀化石が発見された海岸：恐竜が繁栄した時代(2億5100万年前～6550万年前)

④ 日立ジオサイト

日立鉱山を有する
工業都市・日立で、
日本最古の地層に出会う。



日本四大銅山のひとつである日立鉱山を有し、工業都市として発展した日立。そこにはなんと日本最古、カンブリア紀の地層を観察できるポイントがあります。それは5億年前の地層と3億5千万年前の地層が隣り合う壮大な光景。また、伊勢湾海岸の南につづく険しい崖にはウミウの捕獲場があり、そこで捕獲されたウミウが全国の観劇いで活躍しています。

◀日本最古の石：生物が大発生した時代(5億4200万年前～2億5100万年前)

⑤ 花貫溪谷ジオサイト

強い岩が可能にした
花貫ダム、V字谷の絶景。
四季折々の自然を楽しみながら。



暖温帯と冷温帯の植物が混在する珍しい場所、花貫溪谷。花貫ふるさと自然公園センターでは、それらの植物について知ることができます。花貫岩からなる強固な岩盤によって形成されたV字谷はダム建設に適しており、全国でも珍しい海が見えるダム、花貫ダムがつくられました。大地形成の歴史と、美しく貴重な高萩の自然を同時に楽しめるジオサイトです。

◀汐見滝吊り橋：恐竜が繁栄した時代(2億5100万年前～6550万年前)

⑥ 水戸・千波湖ジオサイト

悠久の時を経て、
水の都に生まれた湖。
変化は人々の暮らしとともに。



水戸駅北口に向かうゆるやかな坂、銀杏坂。その坂の下は、たった90年前には、水の中だったというから驚きです。当時の千波湖は現在の3倍の大きさ。耕地化ののち市街地化され、現在に至ります。人々のくらしと結びついた湖ですが、その形成は2万年前の水河期にまでさかのぼります。美しい湖の眺めは、水戸の台地の構造をも教えてくれるのです。

◀千波湖の眺め：人類の時代(259万年前～現在)

茨城県北ジオパーク推進協議会

茨城県北ジオパーク事務局 〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 TEL.029-228-8825

各ジオサイトへのアクセス、
他のジオサイトの紹介は
webページへ！



www.ibaraki-geopark.com

茨城県北ジオパーク

検索